






病害虫発生予察情報予報第 8 号（11 月の予報）

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	11 月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
オオムギ	網斑病	並	並	134~135	 <p>下葉に発生した大麦網斑病 (H31年3月5日撮影)</p>
	縞萎縮病	やや少	並	137	
	斑葉病	やや少	並	135~136	
コムギ	シロトビムシ類	やや少	並	138	
	縞萎縮病	やや少	並	137	
1. シロトビムシ類 常発圃場（コムギ、ハダカムギ等）では、種子粉衣または塗沫処理を徹底する。					
麦類全般	1. 種子伝染性病害（オオムギ網斑病、麦類裸黒穂病） 健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する（防除のてびき p130~131 参照）。				
大豆	1. 紫斑病 適期収穫を行い、乾燥施設へ速やかに搬入する。				

作物名	病害虫名 ^{注1)}	11 月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病	並	並	260~263	
	ポトリチス葉枯症	並	並	264	
	ネギアザミウマ	並	やや多	271~272	
1. べと病 暗渠・明渠や高畝による排水対策を行うとともに丁寧に耕起し、べと病が発生しにくい環境づくりを行う。本圃の準備は時間に余裕をもって行い、適期に定植する。本圃での発生を抑えるために、育苗期および定植前後の薬剤防除を確実に実施する（令和元年8月8日付け病害虫対策資料第5号参照）。					
2. 腐敗病 多湿にならないよう、排水対策を行うとともに、育苗期から薬剤防除を徹底する。発病株は速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出し処分する。					
3. 乾腐病 前年に発生した圃場に植え付ける場合などは、地床育苗の苗は、定植直前にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤を根部浸漬し、セル育苗の苗は、定植前日に同薬剤をトレイに灌注する。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ (本圃)	ハダニ類	並	やや多	209~210	 ハダニ類
	うどんこ病	並	多	199~201	
	アブラムシ類	多	並	214~215	
	1. ハダニ類 一部の間場で発生が増加している。発生初期に防除を徹底する。また、天敵を利用する間場では有効薬剤によりハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵（カブリダニ類）を放飼する。 2. うどんこ病 一部の間場で発生が認められる。約10~14日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、前述の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。 3. アブラムシ類 定植後、発生が多く推移している。発生初期に薬剤防除を徹底する。				
キュウリ	べと病	並	多	179~180	 黄化えそ病
	うどんこ病	やや少	少	177~179	
	褐斑病	並	並	182~183	
	アザミウマ類	やや少	並	191~192	
	コナジラミ類	やや多	並	190~191	
	1. ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ、黄化えそ病、退緑黄化病 これらのウイルス病罹病株を認めた場合は、早急に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、植替え時は、次作での発生を防ぐため、キルパーを用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、18日以上（地温15℃の場合）。空けてから定植する。 2. 緑斑モザイク病（キュウリ緑斑モザイクウイルス） 県内の一部間場で発生が認められる。本ウイルスは、汁液や接触によって容易に伝染し、土壌にも長く残るため、罹病株は速やかに抜き取り、茎、葉、根を残さないよう間場から除去する。次作での発生を防ぐため、多発生した間場では、来春以降、地温が高くなった頃に残渣の腐熟処理や還元土壌消毒等を行う。				
					
写真1 新葉の症状		写真2 果実の症状			
トマト	コナジラミ類	並	並	152~154 229~231	
	1. ウイルス病媒介虫（コナジラミ類、アザミウマ類） ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、媒介虫に対する薬剤防除を徹底する。				
ナス	アザミウマ類	少	少	155~159 242~243	
	コナジラミ類	並	やや多	152~154 243~244	
1. 灰色かび病 果実に付着した花弁は、本病の発生源となるため、適宜取り除き、処分する。また、過湿にならないよう定期的に換気を行う。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
野菜共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、 シロイチモジヨトウ)	やや少	少	163, 164, 165 仔ゴ : 212~214 ハス : 247~248 アスパラガス : 317, 320	 ハスモン ヨトウ
	白さび病	並	並	383~384	 クロゲハナアザミウマ
アザミウマ類	多	多	388~389		
アブラムシ類	並	並	390~391		
ハダニ類	並	並	389~390		
ハモグリバエ類	並	並	392~393		
チョウ目害虫	並	やや少	391~392 163~165		
キウ	1. アザミウマ類 多発生となった圃場が確認される。本虫は葉裏や生長点付近など薬液のかかりにくい部位に生息しているため、薬剤防除を行う際は薬液がそれらの部位にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。				

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～3 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
5 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

11 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 11 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（令和元年 10 月 25 日）を基に、「気温：平年よりやや高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 11 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	40 (12.9℃)	40	やや高
降水量	30	30 (76 mm)	40	並

Ⅲ. 11月の予報

オオムギ

1. 網斑病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 令和元年産での発生状況

①定期調査(平成31年4月15～18日調査)

発生茎率：47.6%（平年50.7%、平成30年産66.2%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 令和元年産の場合、5月の降水量がかなり少なかったこと等から網斑病の二次伝染が緩慢となり、最終的に平年並の発生に留まった。しかし、近年、本病は多発生傾向にあり、本圃での発生を抑えるため、種子消毒を徹底する(特記事項(麦類全般)参照)。

コムギ

1. シロトビムシ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 令和元年産小麦での発生状況（図1参照）

発生圃場率1.1%（平年2.3%、平成30年産0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時期は遅くならないようにする。
(2) 被害が多い圃場では、芽出し播きや芽出し乾燥播きを行う。
(3) 被害が著しい圃場では、オオムギを作付けする。
(4) その他防除対策については、特記事項を参照する。

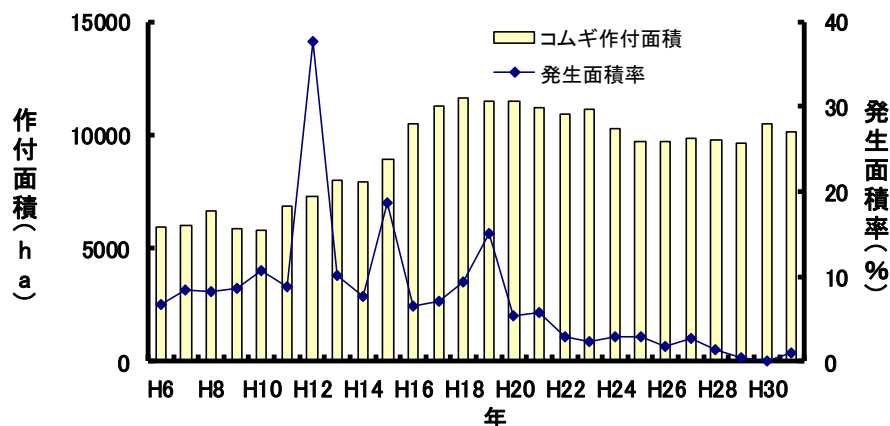


図1 シロトビムシ類のコムギでの発生面積率の年次推移

タマネギ

(定期調査 20 育苗圃場)
調査日：10月24日～25日



定期調査の圃場(苗床)の様子

1. ベと病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

（11月に発病することはまれであるが、苗床あるいは本圃で感染するリスクがある。）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いとみられる。（±～+）（図1参照）

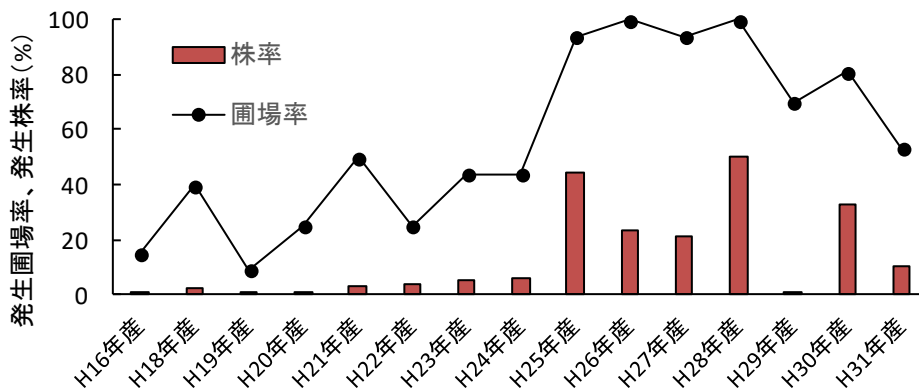


図1 タマネギベと病の発生圃場率と発生株率の年次推移

※農業技術防除センターによる4月下旬の調査結果を示す。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 11月の気象予報

降水量が平年並で並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 育苗期から防除を徹底する。

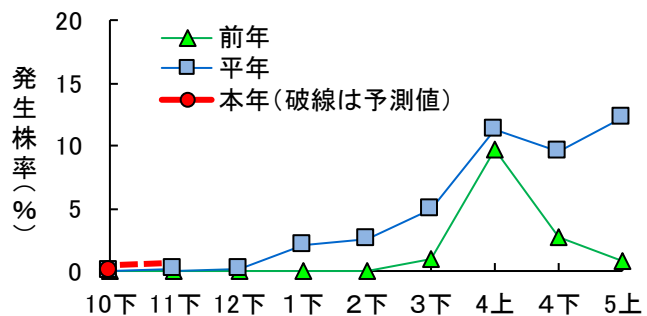


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
注)10月下旬は、苗床を調査した。

3. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0.2%、前年0.1%)

平年比：やや少 (< - ~ ±)

前年比：並 (< ±)

(2) 11月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (< ± ~ +)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本圃へ本虫を持ち込まないよう、苗床での防除を徹底する。

(2) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているの、薬剤のかけむらがないように散布する。

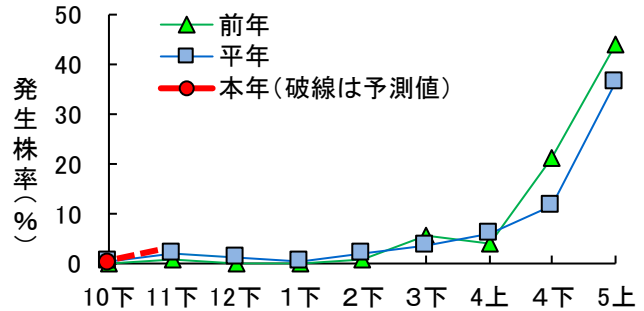


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注) 10月下旬は、苗床を調査した。

イチゴ (本圃)

(定期調査 10 圃場、防除員 4 圃場)

調査日：10月21~24日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：6.6% (平年4.5%、前年1.4%)

平年比：並 (< ±) 前年比：やや多 (< ± ~ +)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

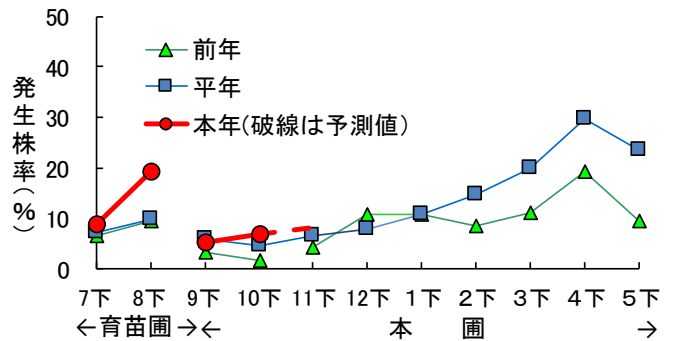


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：3.7% (平年7.0%、前年2.4%)

平年比：並 (< ±) 前年比：並 (< ±)

(2) 11月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (< ±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

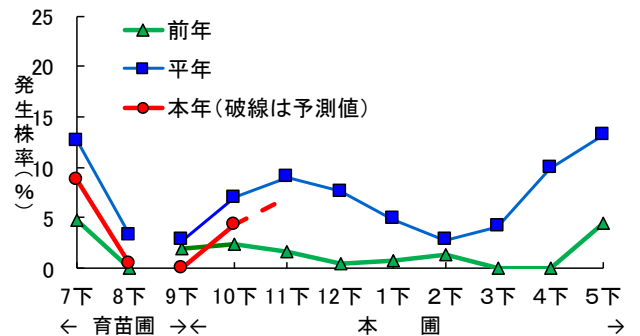


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年並)

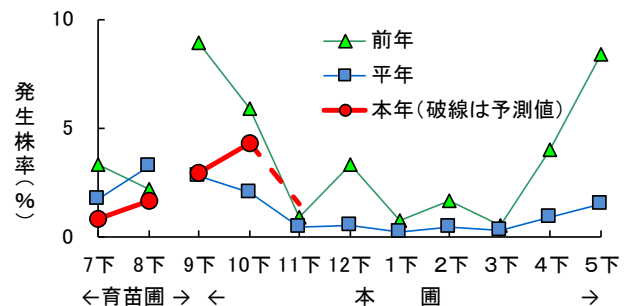


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：4.3% (平年2.0%、前年5.9%)

平年比：多<+> 前年比：並<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する (県病害虫防除のてびき P541~544)。

(2) その他については、特記事項を参照する。

キュウリ (抑制)

(定期調査4圃場、防除員2圃場)

調査日：10月22日~24日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：21.7% (平年18.7%、前年4.2%)

平年比：並<±> 前年比：多<+>

(2) 11月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 湿度が極端に高くないよう、適正な湿度管理に努める。

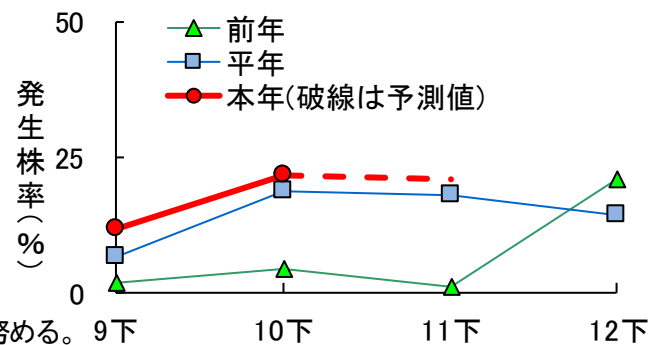


図1 キュウリベと病の発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：13.3% (平年20.5%、前年33.3%)

平年比：やや少<-~±> 前年比：少<->

(2) 11月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 硫黄粒剤や硫黄水和剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。

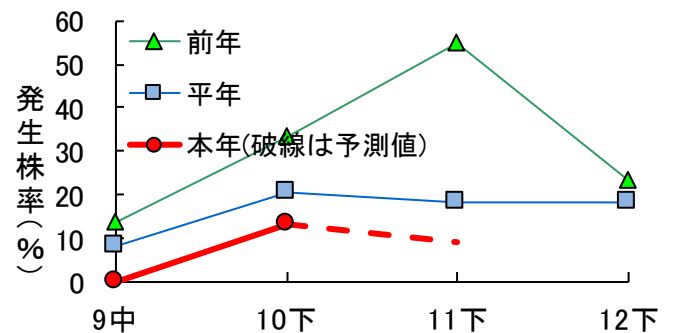


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年3.4%、前年8.3%)

平年比：やや少<-~±> 前年比：少<->

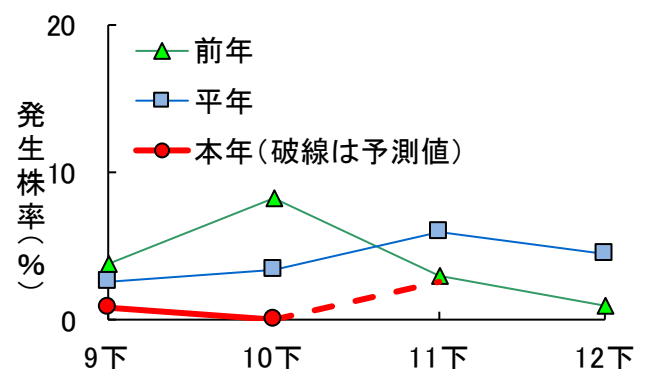


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：10.8%（平年7.8%、前年10.8%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

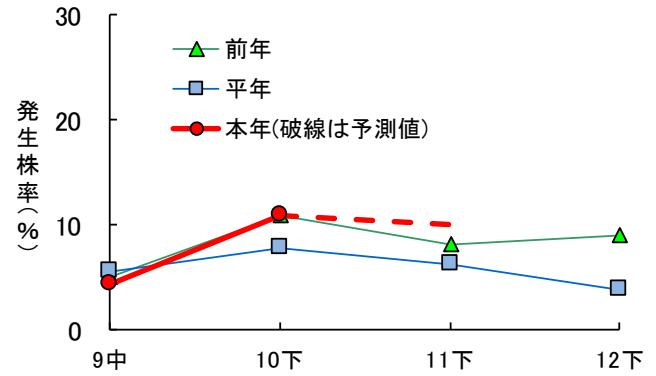


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移



定期調査圃場の様子

[【概要に戻る】](#)

1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：4.0%（平年4.2%、前年4.1%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

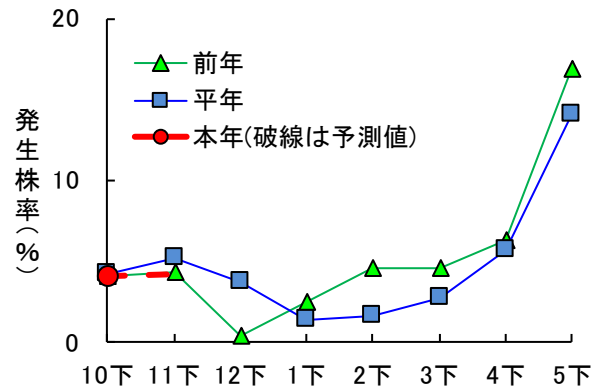


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移



定期調査圃場の様子

ナス（促成）

定期調査：7圃場、防除員2圃場

調査日：10月21～24日

1. アザミウマ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：3.9%（平年22.9%、前年17.7%）

平年比：少（-） 前年比：少（-）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設開口部を防虫ネットで被覆し、ハウスへの侵入を防止する。

(2) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

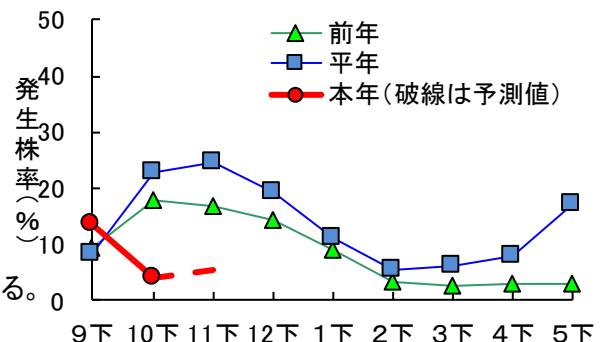


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠
(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：48.3%（平年49.2%、前年44.5%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項
(1) アザミウマ類の項と同じ。

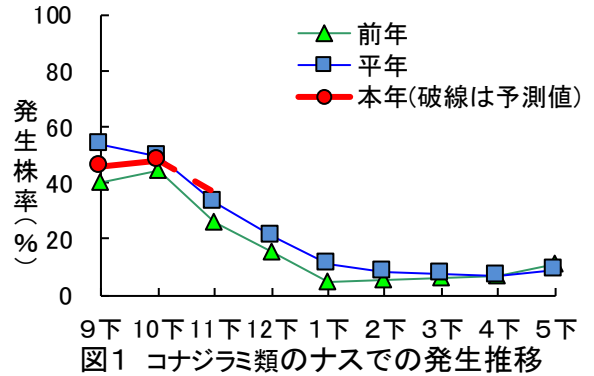


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

野菜共通

[【概要に戻る】](#)

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、材バコガ、シロイチモジヨトウ）

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠
(1) 発生の現況

① 定期調査（図1~4参照）

作物名	食害株率(%)	平年比	前年比	平年値(%)	前年値(%)
イチゴ	8.6	並（±）	少（-）	7.2	16.5
ナス	1.1	やや少（-~±）	少（-）	8.0	10.0
アスパラガス	0	やや少（-~±）	並（±）	0.2	0

② フェロモントラップによるハスモンヨトウ及びオオタバコガの10月の誘殺数は、平年より少なく推移している（図4~6）（-）

③ フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの10月の誘殺数は、平年より多く推移している（図7）（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生程度は、圃場毎に大きく異なるため、必ず圃場での発生状況を確認する。
- (2) 薬剤防除にあたっては、使用方法（収穫前日数等）を遵守し、虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 幼虫は、齢が進むと薬剤の防除効果が上がりにくいいため、若齢幼虫期に防除を行う。

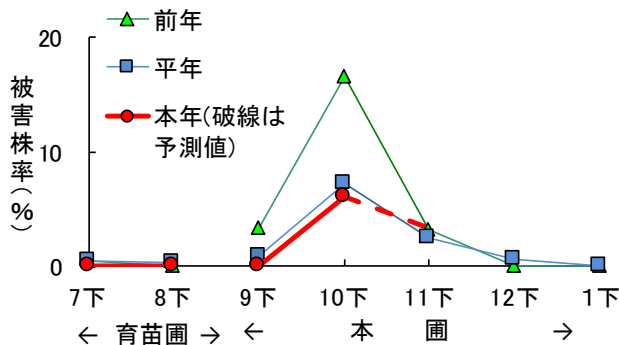


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

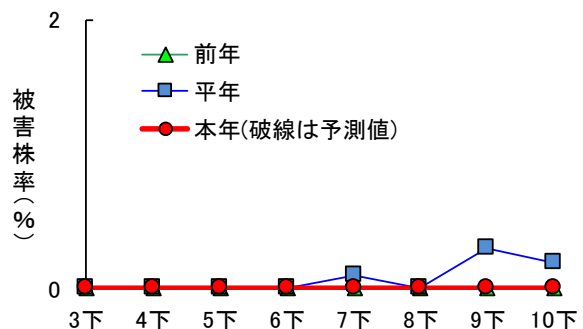


図2 チョウ目害虫のアスパラガスでの被害株率

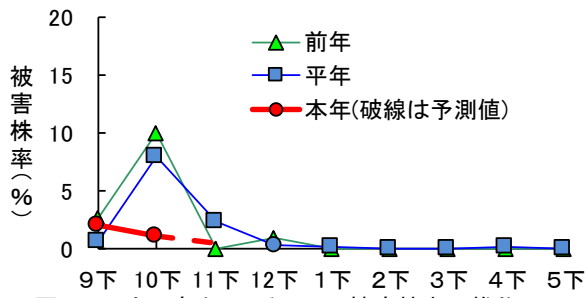


図3 チョウ目害虫によるナスの被害株率の推移

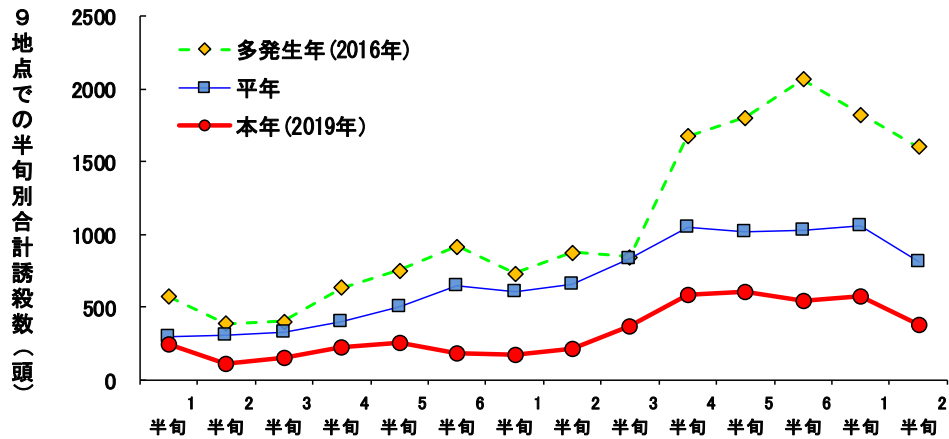


図4 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数(10月2半旬まで)
(農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。)

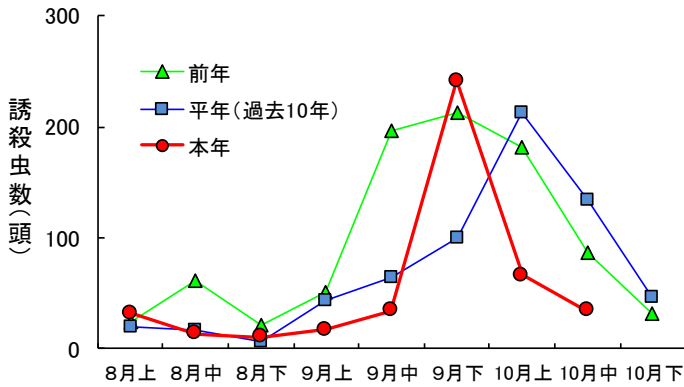


図5 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数の推移
(病害虫防除員による川副町2地点での平均誘殺数)

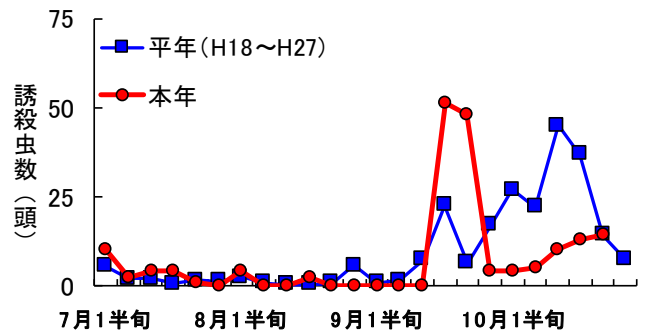


図6 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数
(川副町・農業試験研究センター調査)

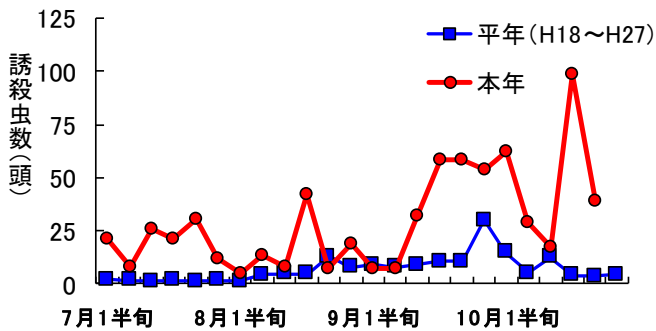


図7 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの半旬別誘殺数
(川副町・農業試験研究センター調査)

キク

定期調査：8 圃場
調査日：10月21～24日



1. 白さび病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年 0%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 11月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する。散布する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

定期調査圃場の様子

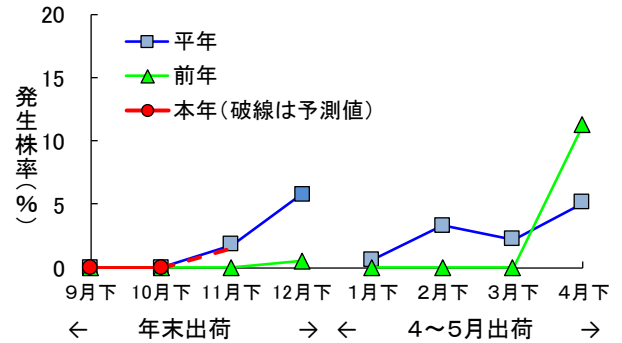


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 20.3%（平年 3.9%、前年 5.8%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病（TSWV）・茎えそ病（CSNV）の発病株は早急に取り除き、圃場外へ持ち出し適切に処分する。
(2) その他については、特記事項を参照する。

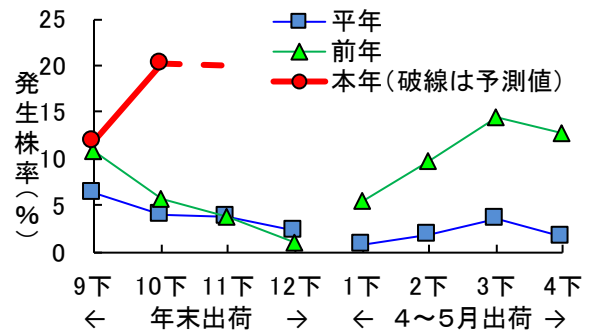


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率 8.3%（平年 9.6%、前年 3.5%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

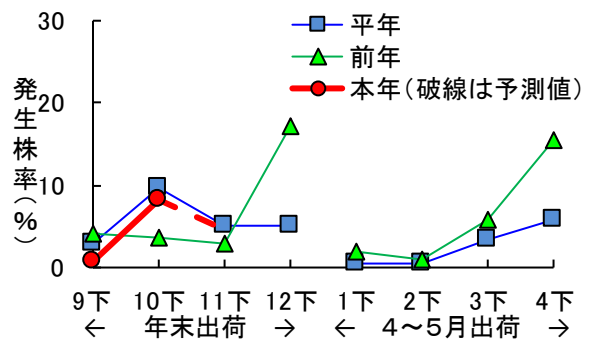


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

4. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

被害株率0.8%（平年1.4%、前年2.0%）

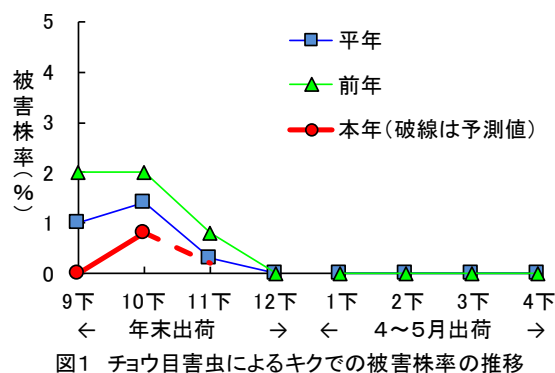
平年比：やや少（-〜±） 前年比：少（-）

②フェロモントラップによる誘殺数

野菜共通の項目参照（-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 野菜共通の特記事項を参照。



連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp